

平成29年度 第2回宇和島圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会

会 議 録

日時 平成29年9月28日(木) 午後2時00分～午後3時00分

場所 宇和島市役所 6階 602会議室

出席

(委 員) 竹葉委員、岡部委員、渡辺委員、上田委員、入田委員、西崎委員、久保委員、二宮委員、加藤委員、善家委員、平田委員、田中委員、井上委員、新田委員、松浦委員、徳岡委員、中尾委員、山崎委員代理人(柳沢氏) 【敬称略】

(アドバイザー) 愛南町企画財政課：立花課長補佐、松野町ふるさと創生課：友岡課長、上野主事、市立宇和島病院総務管理課：牧野主任、宇和島市教育委員会学校教育課：野田課長、同保健健康課：太田課長補佐、同商工観光課：小櫻課長補佐、同福祉課：岡原係長、同企画情報課：田中係長

(事 務 局) 宇和島市企画情報課：大宿課長、梶原課長補佐、渡邊係長、山本主事

1 開会

2 委員挨拶

【第1回欠席の委員が自己紹介】

3 議事

(1) 第1章 定住自立圏共生ビジョンにおける基本的事項

(2) 第2章 圏域の概況

(3) 第3章 圏域の将来像

【一括して提案され、事務局から「定住自立圏共生ビジョン作成案」資料①p.1～14を用いて説明】

【質疑応答】

(委 員) 9 ページの愛南町の主な名所等に「紫電改展示館」「かわうそ村(海の駅)」を載せてもよいのではないか。

(事務局) 了解した。

(4) 第4章 定住自立圏協定に基づき推進する具体的取組

【事務局より「定住自立圏共生ビジョン作成案」資料①p.15～38 を用いて説明】

【質疑応答】

（委員） 予算の数字が入っていないものは検討中ということによいのか。

（事務局） はい。

（委員） 29 ページのインバウンド対策事業について、団体旅行ではない個人旅行者の把握はどのように考えているのか。

（事務局） 現在はホテルや職員の配置がある施設に外国人旅行者数の把握を依頼している状況。東京五輪を控え、今後インバウンド受け入れを強化していく中で、旅行者数の把握方法も検討していくこととしている。

（委員） 同じくインバウンド対策事業について、飲食店のメニュー等、圏域事業者の多言語化が遅れているように感じる。そのような事業者の多言語化への取り組みについても事業に含まれるのか。

（事務局） 具体的な事業を行う担当部局へ伝え、検討する。

（委員） 道路の案内看板の設置について現状は。

（事務局） 宇和島市のみで言うなら歩行者向けに日本語・英語・韓国語の案内板を 60 か所ほど設置している。

（委員） 33 ページの国道整備促進事業について、高知県に向かう中山間地域を通る国道 381 号線についても少し取り上げてもらいたい。
また、24 ページの不登校児童生徒支援事業について、どのくらいの利用があるのか。

（委員） 24 ページの不登校児童生徒支援事業について、一般小学校の修学旅行のような体験授業がない。将来の自立のためにも、支援施設でこのような集団行動を学ぶ機会を作るべきではないかと思う。

（アドバイザー） 宇和島市にある支援施設は「原則として宇和島市在住の不登校児童生徒で本人保護者の希望がある者」を対象としており、市外の受け入れは困難な状況であった。周辺町からも利用したいとの話は出ていたため、今回の機会を利用して検討を行っているもの。
人数については出入りがあるため変動が大きいですが、現在は 10 名程度

が利用。また、支援施設に通えない、家から出れないという児童生徒には相談員が自宅へ出向いてケアを行ったりしている。

(委員) 支援施設は全寮制と通所のどちらか。

(アドバイザー) 通所のみで保護者が送迎している。

(委員) 農業や漁業で後継者不足と言われているが、将来子ども達が地元へ戻ってきてくれるよう、故郷のいいところ、産業を体験してもらう事業を行えるとよいのではないか。

以前に松野町と宇和島市の宇和海中学校で交流事業をしており、松野町の子どもが宇和海中学校へ進学したこともある。

圏域の範囲でこのような地域・ふるさとを体験してもらうような事業を教育面に盛り込んでもらいたいと思う。

(事務局) 担当課が出席していないため、事務局より連絡し検討してもらう。

(委員) 少子化が進むと宇和島圏域でも公立高等学校への入学が減っていき、1クラスあたりの人数が減ってくるのでは。そうするとクラス内での集団行動や学習に支障が出て、それが学力低下につながるのではないかと危惧している。

この場での話ではないかもしれないが、教育関係の方もいるので、PTA や県への提案等で考慮してもらえたら。

4 その他

【自由意見】

(委員) 道路整備については書かれているが、交通網には記載がない。

バスや鉄道も大変厳しい状況で、地方ではハイヤー業者の撤退している所もあり、高齢者の足の確保が重要になっている。

このことについて何かひとつでもビジョンに入れて、公共交通の円滑な運営を考える機会としてもらえないか。

(委員) 認知症の人の免許保持についても同様の問題がある。警察や医師会とも連携しているがなかなか難しい。自動運転車の導入など、全国的な制度の変更が必要らしく、事務局には地方のそのような要望を国等へ出していってもらいたい。

(委員) 宇和島自動車では平成15年頃に大きく路線を整理し、市町がコミュニティバスで路線を維持している地域も多い。
それから14年経過し、再度見直ししなければならないような時期に来ている。ビジョンの中には交通に関しては入っていないが、宇和島市でも交通計画の見直しをするということであり、それらの各市町レベルでの検討を進めていく必要があるのでは。
通院通学に使われる生活交通バスはすべて赤字で、行政からの補助もあるが100%でなく自社負担が発生しているがそれもままならない状態。これらも含めて交通会議の中で再編を進めていきたい。

(事務局) 交通に関しては、県全体で交通計画が策定中で、宇和島市も今後策定するという状況にあり、圏域レベルでの事業ができるかどうかKPIや事業成果の設定も含めて検討してきたが、現時点では各市町独自で行うべきとの判断であった。今回ご意見をいただいたため、再度各市町担当課において検討を行う。